

4 保護者と会うとき

① ねぎらいと勇気づけをしよう。

例「本当にたいへんでしたね。どんなにかお疲れのことでしょう。」

例「こんなたいへんな中でも、ご家族は何とかしてきたのですね。」

例「そのご苦労ご努力に頭が下がります。」

保護者のお話には、被災状況の事実はもちろんその心情に静かに耳を傾けてください。

② 基本的な姿勢を示し、相談窓口を伝えよう。

例「私たちは、お子さんがよりよく育つように、ご家族の方と力を合わせて連携していきたいと考えています。お子さんが困っていることなどありましたら、遠慮なく担当者(校内支援チームなどを創設し、窓口となる人を紹介する)へご相談ください。」

③ 保護者の関係づくりをサポートしよう。

互いに知り合うことが関係づくりのスタートです。保護者会では、SGEなどが役に立ち、その活用で、関係づくりを支援します。地域内の保護者間のさりげないサポート(近隣の病院やお店情報など)が役立つはずです。

PTAの協力も考えていきましょう。

5 学校・担任への支援窓口

① 日本学校心理士会山形県支部

支部長 松崎 学 023-628-4371 e-mail: 266@kdeve.kj.yamagata-u.ac.jp

事務局 出口 毅 023-628-4369 e-mail: deguchi@e.yamagata-u.ac.jp

② 日本教育相談学会山形県支部

理事 八柳和夫(携帯 080-1811-4147) e-mail: k.yatsu@muse.ocn.ne.jp

事務局 佐藤節子 023-628-4414 e-mail: setsuko@e.yamagata-u.ac.jp

③ 山形県教育カウンセラー協会

代表 松崎 学(同上) 事務局 佐藤節子(同上)

④ 山形県教育委員会義務教育課

誰もが初めて経験する出来事です。

担当だけが抱え込むことがないように情報交換をしましょう。



緊急メッセージ I 今 教員にできること

避難児童生徒等への学校による支援

日本学校心理士会山形県支部・日本学校教育相談学会山形県支部・山形県教育カウンセラー協会

はじめに

東北関東大震災による県内避難者の児童生徒たちが、まもなく入学・転校してきます。各学校では、その受け入れに心を砕いて準備を始めておられることとご推察申し上げます。

私たち三つの団体では、避難家族とその児童生徒たちが、この状況を少しでもより良く乗り越えることができるように、学校と先生たちを支援していくことを決意した次第です。

2011年4月1日

かかわり方の基本

1 そっと見守りながらも普通に接しよう。

子どもたちは、困難な状況の中でも、たくましく成長していく力をもっています。その力を信じ、寄り添い伸ばしていくのが私たち教師の役目です。子どもたちの自尊心(自分のやれることは自分でやれるしやりたいと思うこと)を大切にしたいものです。行きすぎた対応は、依存心を強めたり、学級の他の子への影響が心配されたりします。

2 校内支援のネットワークをつくり、他の機関とつながろう。

保護者は、どんなに不安な気持ちでいることでしょう。保護者の不安を受け止めるための学校の体制を整えてください。相談窓口になる先生や他機関との連携をする先生などが必要になると思われます。

3 学級集団を育てよう。

避難してきた児童生徒だけでなく、在学している児童生徒のほとんどは、地震とその後の報道でかなりのストレスを感じています。迎え入れることの不安も大きいことでしょう。特別な配慮よりも、転入してくる子も、今いる子も、「この学級に入ってよかった!」と実感できるような学級づくりが求められています。



学校・担任に求められる受け入れ体制



基本的には、一般の転校児童生徒への配慮と同様の対応をお願いします。

転入生が、すでにある集団になじみ、集団が転入生を受け入れ新たに成長していくことをよりていねいに支援してってください。

1 転入生と教員とのつながりをつくる

大事なことは、安心して先生や友達に接し、学ぶことができる環境をつくることです。そのためには、日ごろ心がけているさりげない配慮やあたたかい言葉かけ、児童生徒の身になって話を聴く態度をお願いします。返事がなくても「思い出したらいつでも教えて。」と伝えましょう。多すぎる質問や説得は控えましょう。

① 学校は力になりたいと思っていることを、きちんと伝えてください。

例「先生はあなたの力になりたい。お話したいときはいつでも聴くよ。」

② 好きなこと・得意なことについて聴きましょう。

関係をつくり支えるための情報・資源になります。

例「どんな遊びが好き?」「得意なことは何かな?」

③ 児童生徒の前向きな言動に目を向け、声をかけてください。

例「明るいあいさつで、気持ちがよかったよ。」

④ 感情をていねいに受けとめ言葉で返すことで、自己を客観的にとらえることができるようお手伝いをしてください。

○相手が話す時は、感情を出すことを制止したり否定したりせずていねいに聴いてください。自分の感情を素直に出せることはとてもいいことです。相手の感情を、鏡になったように聴いてください。時に恐怖や不安が怒りとなって出てくることもあります。怒りの奥にある感情をとらえ、言葉で返しましょう。

例「腹が立って仕方がなかったね・・・。」

例「こわかったね・・・。」「悲しかったでしょうね・・・。」

●つらかった経験は無理に聴きださないようにしましょう。基本的には相手が語ることを聴いてください。

また、「がんばれ!」「しっかりして!」「かわいそうね。」などの、過度の励ましや慰めはあまり効果がないばかりでなく、相手を傷つけてしまうことがあります。目の前にいる相手の心の動きをみて、必要な言葉をかけていくことが大事です。

2 転入生と児童生徒のつながりをつくる

学級づくりにあたっては、児童生徒同士のつながりをつくり、支えあう学級風土を築きましょう。

①はじめの関係づくりをよりていねいにしましょう。

安心と楽しさのある自己紹介を工夫しましょう（一部の子どもにとって全体の前での自己紹介は緊張のため負担が大きいものです）。

例1「質問じゃんけん」

2人組をつくり、じゃんけんをします。勝った方が負けたほうに質問します。ねらいは親しくなることです。（1～2分）

例2「あいさつリレー」

輪になり、となりの人に、「私の名前は△△です。○○って呼んでね。よろしく!」と言います。これをリレーしていきます。

例3「カードで自己紹介」

紙を四つに折り、それぞれに名前、好きな遊び、新学期にがんばりたいこと、心配なことなどを記入し、その紙を見せながらグループで自己紹介します。

②互いにサポートしあう関係を築いてください。

児童生徒にとって、仲間のサポートが一番の支えです。

例1「合わせじゃんけん：あいこでほい」

グループで「あいこでほい!」といいながら、グーチョキパーを出します。

どうしたら合うかグループで作戦を立てて再度やってみます。

例2「肩もみエンカウンター」

2人組になり、お互いに肩を揉み合います。一方は嬉しかったことやおもしろかった出来事を話し、他方は聴きます。無言でやる方法もあります。（1～2分）

☆検索サイト：図書文化社：構成的グループエンカウンター（SGE）

<http://www.toshobunka.jp/sge/index.htm>

③ストレスマネジメント教育のすすめ

リラクゼーションのために呼吸を整えたり、児童生徒がお互いに肩もみをしたりします。「タッピングタッチ」という方法もあります。

☆検索サイト：ほんの森出版 <http://www.honnomori.co.jp/>

3 個別の支援が必要なとき

子どもたちは、困難な中でも成長する存在です。感情を適切に受け止められ、勇気づけられた子どもは、困難を乗り越える力を自ら作り出すことでしょう。強いストレスがあると、一般的には次のような症状が出ますが、それは正常な反応です。長く続く場合は相談してください。

イライラ・怒り・落ち込み・疎外感・睡眠障害・恐怖の揺り戻し・無気力・判断力や決断力の低下・子ども帰り・引きこもり・拒食過食・頭痛・腹痛・筋肉痛・吐き気・胃腸障害・呼吸障害・強い高揚感・過剰な適応・がんばりすぎ など